

令和元年度第3回 福島県子ども・子育て会議 議事録

開催日時：令和2年2月12日（水） 13：35～14：50

開催場所：杉妻会館3階会議室（百合）

出席者：福島県子ども・子育て会議委員（16名）

県出席者 事務局（17名）

1. 開会

- ・令和2年2月12日から2年間の新たな任期で委嘱となり、辞令を交付した。
- ・新任委員の2名が紹介された。
 - 竹岡博之委員（日本労働組合総連合会福島県連合会）
 - 鈴木みなみ委員（公募委員）
- ・委員数22名に対して、16名の出席があり、定足数（過半数）を満たしていることを事務局が報告した。

2. 議事

（1）会長及び副会長の選任について

- ・司会から立候補又は推薦を求めたところ、「事務局一任」の声あり。事務局から、会長に西内みなみ委員、副会長に古渡一秀委員の案を提示した。拍手多数により、事務局案のとおり会長及び副会長が選任された。
- ・重巢吉美委員と樋口葉子委員の2名が、本会議の議事録署名人となった。

（2）部会委員の選任について

- ・西内会長の指名により、計画部会の委員には宮内隆光委員ほか9名が、認定こども園部会の委員には重巢吉美委員ほか3名が選任された。

（3）ふくしま新生子ども夢プラン次期計画の素案について

- ・こども・青少年政策課 菅野課長が資料1～資料4について説明した。質疑応答、意見は次のとおり。

①福島県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会 伊藤委員

- ・資料2の3ページ。いじめの認知件数が増えているが、それは基準が変わったからか、それとも先生方の努力か。

（高校教育課 鈴木主任指導主事）「疑い」でも認知するようになった。

- ・増えたことは良かったという認識で掲載しているということによいか。

（高校教育課 鈴木主任指導主事）そのとおりである。

②福島県保育協議会 宮内委員

- ・資料3の69ページに「個別の教育支援計画の作成率」の指標があり、目

標値と現在値の差があるのはどういうことか。

(特別支援教育課 赤坂主幹兼副課長) 個別の支援が必要な子どもが通う学校を対象として行っていたことを、個別の支援が必要な子ども全てを対象に行う必要があるということからそのような指標になっている。

③社会福祉法人福島県社会福祉協議会 熊川委員

・資料2の3ページの「子どもの参画の推進」というのは重要だと思う。小さなときから地域のできごとに関心を持たせることは重要であるが、施策としてどのようなものがあるか。

(こども・青少年政策課 菅野課長) ボランティア活動も含め、資料3の55ページに記載している。

④日本労働組合総連合会福島県連合会 竹岡委員

・地域ぐるみの支援において、これまで定年60歳だったが65歳や70歳まで働くようになってくる。この計画の期間は良いが、10～20年後も続いていくのか疑問である。支え、支えられていることについて、調査等行っているのか。

(こども・青少年政策課 菅野課長) 現在、調査の計画はない。現在、地域や社会全体で子育て支援をしていくという流れがあり、県としてもそれを支援していく。こども食堂でも、地域の大人や高齢者も集まり、地域の交流の場となっている。

⑤福島県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会 伊藤委員

・先月小名浜で事件があり、その防止策はいろいろと聞くが、子どもの心のケアについては何かしているのか。

(児童家庭課 菅野課長) 子どもの心のケアについては、学校にスクールカウンセラーが配置されており、また、児童相談所にも心理職の職員がおり対応している。

・経済的理由という報道もあったが、子どもの成長にそのような負担をかけるために何か策はあるか。

(児童家庭課 菅野課長) 経済的基盤の弱いひとり親世帯を支援している。支援制度の啓発に努めたい。

・小名浜の事件の際、学校から報道に対する注意はあったが、心のケアに対する指示はなかったようだ。相談したいときの窓口はわかったが、その前段階の声かけもしてもらえればと思う。

(児童家庭課 菅野課長) 子どもや家族の悩みについては県の児童相談所が窓口としてあるが、市町村でも対応できる体制が整備されてきている。

⑥福島県助産師会 小谷委員

- ・児童虐待の原因の一つに計画しない妊娠というのがある。妊娠がわかるかわからないかの時期に不安を持つので、その時期でも相談できる場所があればと思う。

(子育て支援課 貝羽課長) 相談先としては、市町村で設置している子育て世代包括支援センターがある。また、厚労省のパンフレットを基とした、県版のパンフレットを配布して啓発を行っている。

⑦福島県私立幼稚園・認定こども園 PTA 連合会 安齊委員

- ・震災以降、外で遊べなかった環境の改善を行ってきた。県も同様だと思うが、いまだに難しさを感じる。肥満児の数値にも表れている。震災対応をもう少しインパクトを持ってやってほしい。グラフの数値が事実とされてしまうことを危惧している。
- ・資料3の58ページのプログラムを作るための補助が今年度なくなった。もう大丈夫ということだろうか。震災後10年を迎えるが、継続していかなければ。
- ・資料3の55ページに記載の地域で遊べる場の提案は良い。でも5年でできるのか。いじめの問題もそうだが、なくすために何をしているのか見えなければ数字だけで判断されかねない。
- ・全体的な方針はこれで良い。でも数字が一人歩きしそうなことが散見される。「環境づくり」、「体制を整える」という文言が多い。

⑧福島県認定こども園協会 古渡委員

- ・全体像はすばらしい。
- ・出生率は載っているのか。
- ・どうやって遂行し、確実なものにするのか。子育て世代の使いやすいものになっているのか。進め方の指標が見られない。縦だけではなく横でも進めなければ。
- ・今産まれた子どもが20～30年後の福島を支えるなら羅針盤が必要ではないか。

(こども未来局 佐々木局長) 出生率については資料3の46ページに載せている。出生数の見込みについては増加を目指すとしている。県の希望出生率は2.11だが、難しい。横の連携についてはやっていきたい。

⑨NPO 法人しらかわ市民活動支援会 樋口委員

- ・資料3の45ページの「家庭訪問型支援団体」の後ろに、「(ホームスタート)」と加えてほしい。
- ・資料3の46ページや51ページに指標が掲載されているが、表が見にく

い。担当課は1番後ろで良いと思うし、表内に「年度」が書いてあるのも見にくい。

(こども未来局 佐々木局長) 記載の変更について、了解した。

⑩福島県商工会議所連合会 坪井委員

- ・子育て支援において企業に責任はないという状況ではない。
- ・女性の社会進出や高齢者の育休取得も考えなければならなくなるかもしれない。
- ・このようにプランとして方向性が出るのは良い。企業に示しやすい。
- ・企業においても横の連携の軸の一つとしてやっていき、商工会議所の施策にも入れていく。

⑪福島県助産師会 小谷委員

- ・母乳育児を推進したいと思っている。前回の計画には食育の中に母乳育児のことが記載されていたが、今回の計画ではなくなっている。母乳をやめたい人が増えているので文言で示してほしい。

(こども未来局 佐々木局長) 資料3の45ページに記載はしてあるが、指標については素案の段階では載せていたのを外した。母乳が出ない人のプレッシャーにならないよう、指標にはしない。ただ、県としては推進していく。

- ・確かに体質的な問題で母乳の出ない人はいる。指標から外すと努力しなくて良いと捉えられる。

(こども未来局 佐々木局長) 指標とするかについて、検討する。

⑫福島県民生児童委員協議会 古関委員

- ・最近、女子のスカートの中を撮影し、お金に換えるという事件が起きた。スマホのフィルタリングをしていない割合は35%であるが、親が子どもにスマホの使い方を教える必要がある。そのことについて県をあげて言っていかなければならない。

3. その他

(1) 令和2年度こども未来局当初予算(案)について

- ・こども・青少年政策課 菅野課長が資料5について説明した。質疑、意見はなかった。

4. 閉会